

《地なるいのち》 —2003 年を生きる—

大村 恵美子

新年おめでとうございます。私は、クリスマスカードの何枚かに、

平和、平和、なおも平和！

と書いて出しましたが、またまた性懲りもなく、戦乱を構えそうな不穏な地球に、ともかくも殺し合わない時が維持されますよう、年頭の祈りもこれに尽きます。

2003 年 5 月 10 日の、第 93 回定期演奏会は、4 つのカンタータ、1 つのモテットによる《地なるいのち》。私があるために思いついた、ちらし・プログラムの図案は、フェルメールの油絵『マルタとマリアの家のキリスト』(1655 年頃) の、マリアの部分です。

専門家のご意見では、画家としてのスタートを切ったばかりに作られたこの絵は、フェルメールの作品のなかでも、どちらかといえば凡庸なもののようにです。じつに世俗臭に満ちた題材を扱いながら、人間生活のなかの静寂を、不思議な感覚で切りとって

のち》というタイトルに連想を得たのは、まさにその俗世のなかの静けさの瞬間に心ひかれたからなのです。

マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。マルタは、いろいろのもてなしのためにせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」(ルカ 10 : 39-42)

マルタのほうが、客観的にはりっぱそうで、マリアは調子よく、甘えんぼうのようでもある。ひとに働かせて、自分はぬくぬくと安易なほうに身を置いているようにも見えます。しかし、有為な行動がリードするなかで、それを超えたところから来る声に耳を傾ける。これが、「今は中間の時」に生きる私たち人間に、最も貴いことなのではないでしょうか。世俗のただ中にある、精神のコンセントレーション(集中)のひととき。

これを、フェルメールの少女と同じように、世にあるかぎり、私たちが慕わしく思い、たのしく感じ、生きつづける力の源としてゆくのではありませんか。



(全体)



フェルメール「マルタとマリアの家のキリスト」(部分)
いるフェルメールですが、私がとりわけ《地なるい

第 92 回定期演奏会 —創立 40 周年記念公演Ⅱ—

2002 年 12 月 15 日（日） 午後 4 時開演
石橋メモリアルホール

<曲目>

マニフィカト ニ長調（挿入曲つき）BWV243/243 a
カンタータ第 61 番《いざ来たりませ 世の救い主》
BWV61

<出演>

光野孝子（ソプラノⅠ）
田中奈美子（ソプラノⅡ）
佐々木まり子（アルト）
平良栄一（テノール）
水野賢司（バス）
東京バッハ合唱団（合唱）
東京カンタータ室内管弦楽団（合奏）
草間美也子（オルガン）
大村恵美子（指揮／訳詞）

第 92 回定期演奏会とクリスマス会

田中 玲子（団員）

5 月 12 日の創立 40 周年記念公演Ⅰ《ミサ曲口短調》につづいて、12 月 15 日の記念公演Ⅱ《マニフィカト／カンタータ 61》の演奏会でも会場を埋めつくすたくさんの方々に演奏を聴いていただくことが出来ました。カンタータ 61 は、1982 年創立 20 周年の 12 月の定期演奏会で歌った曲です。ミサ曲口短調の冒頭 4 小節のキリエの合唱のように、最大限の集中力を必要とする各声部の雄大なユニゾンが印象深い大好きな一曲です。マニフィカトは、1972 年と 1993 年に演奏した曲です。マリアの讃歌なのでやさしさに溢れた感じで、との指導を受けておりましたが、全曲しなやかに歌い通せたでしょうか。1 曲 1 曲が短いので曲の変化に応じられる集中力が必要とされる曲でした。

私たちは最上なるバッハ音楽と大村先生の最上の訳詞に育てられて、ひとりひとりの胸に心に飛び込んでゆく演奏が出来たと感じております。祈らずにはいられない 2002 年でした。バッハの音楽に励まされ育てられて、心を高く上げて、「青い美しい地球」に相応しい人間になりたいと思います。

翌 16 日は、目白の練習場で恒例のクリスマス会でした。開放感の溢れた会場に、お客様と団員のすばらしい演奏つきで、ごちそうが待っていました。団友の森井眞先生からは、いつものように温かい感謝と励ましのお言葉をいただきました。先生のやさしいお言葉を聞きながら、今年度の演奏会に心地良いピリオドを打ちました。

「ひと わが声を聞きて 戸を開かば、われ 内に入りて かれとわれ 食を共にせん」（カンタータ 61）。

合唱団も私たちの心も、いつも開かれて、皆さんをお待ちしています。

会場アンケートより

「誠実な演奏に、まことの音楽の喜びを聴く思いがいたしました。有難うございました。これからもご活躍をたのしみにさせていただきます！」（藤江隆男様）

団友・後援会員の皆様からも、一様に次のようなご感想が寄せられています。

「この日の演奏は、たいへん美しい出来ばえでした」「合唱団の気迫に満ちた演奏に圧倒されました」「今年もすばらしい演奏を全身で受けとめられるよう、万全を期して伺うつもりです」

クリスマスの「マニフィカト」

森井 眞（団友）

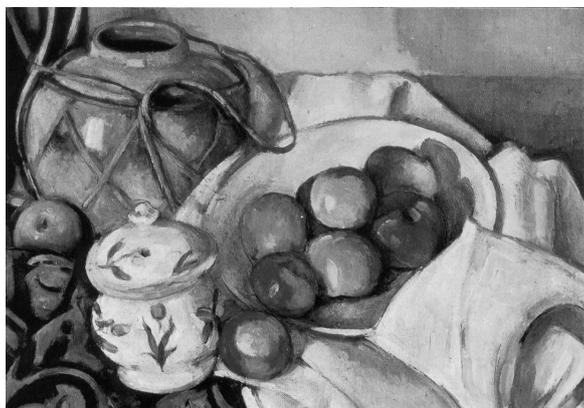
クリスマスにはやっぱり「クリスマス・オラトリオ」がいい。前半も、後半も、それぞれにいい。これを聴かないとクリスマスが来た気がしない、と思っていた。「マニフィカト」はいろんな演奏でこれまで何度も聴いているが、美しいは美しいけれど、とくにそれほど魅力的とは思えなかった。

それが、こんどの演奏会ではじめて、この曲の、とくに合唱曲の、まさにバッハならではの音楽の豊かさ、音の重なり、連なり、流れの美しさを楽しむことができた。

「オラトリオ」にも涙がでるほど美しい曲はあるものの、物語性が大きな役割を果たしていつかそれに心をひかれている。それに比べると「マニフィカト」の方が純粋に音楽の美しさを楽しめるのかもしれない。

そして「挿入曲」が加えられればまぎれもない立派なクリスマスの音楽であり、クリスマスは毎年「オラトリオ」でなくても「マニフィカト」が聴ければ、これもいいな、というのが私の抱いた感想である。

おたより



昨夜、演奏会終了後“はやて”にて盛岡に 10 時ごろ帰宅しました。

この度もたいへんお世話になりました。いつもこのクリスマス季節のバッハ合唱団のプログラムには、心慰められ勇気づけられます。

マニフィカト、本番はやさしい、しっとりしたテンポで、丁寧に演奏されていましたね。

また 5 月も歌わせていただけるのを楽しみにしております。今年一年もお世話になりました。感謝の気持ちを込めてりんごをお送りいたします。皆様どうぞお召し上がりくださいませ。

よいクリスマス、新年をお迎えください。

バッハ・カンタータ 50 曲選 出版ニュース No.14

◆第 4 期 10 曲が出来あがりました。

日本語版楽譜選集『バッハ・カンタータ 50 曲選』第 4 期配本分 10 曲 (BWV1, BWV26, BWV30, BWV40, BWV47, BWV72, BWV77, BWV78, BWV93, BWV99) が出来あがっています。

一般への発売は、CD の発売に合わせ、今春 3 月からの予定ですが、ご予約の皆様には昨年末より順次お届けいたしております。

まだお手元に届いていない方、または、ご予約になられていない方がいらっしゃいましたら、ご一報ください。

第 4 期全 10 曲セット：予約特価 ¥14,000 (税別)

2 月末日までにお申し出いただければ、消費税・送料ともサービスさせていただきます。

◆CD 選集

『日本語演奏によるバッハ・カンタータ 50 曲選』(全 20 巻)… いよいよ 3 月よりスタートします。

第 1 期の発行は、次の 4 巻です。

【第 2 巻】 BWV8, BWV16, BWV19

【第 6 巻】 BWV41, BWV42

【第 8 巻】 BWV61, BWV63

【第 13 巻】 BWV104, BWV106

パンフレット (申込み用紙つき) ご入用の方は、お申し出ください。

2003 年度演奏計画

5 月 10 日 (土) 16:00

第 93 回定期演奏会

“地なるいのち”

石橋メモリアルホール

カンタータ第 26 番《はかなく むなしき 地なるいのち》

カンタータ第 30 番《よろこべ 救われし民》

カンタータ第 47 番《おのれを高むる者は 低くせられ》

カンタータ第 1 番《あしたに輝く たえなる星よ》

モテット第 2 番《みたま わが弱きを助く》

ソリスト

光野孝子 S, 佐々木まり子 A, 平良栄一 T, 渡邊 明 B

8 月 9 日 (土) 19:00

野尻湖特別演奏会

神山教会

カンタータ第 138 番《何ゆえわが魂 うなだるるや》

カンタータ第 139 番《幸いなるかな 幼児のごとく》

カンタータ第 26 番《はかなく むなしき 地なるいのち》

カンタータ第 30 番《よろこべ 救われし民》

(いずれも抜粋)

12 月 (日時未定)

第 94 回定期演奏会

石橋メモリアルホール

カンタータ第 40 番《地に來ませり 神の子》

クリスマス・オラトリオ IV・V・VI

後援会 会計報告

2002年7月～9月

	内訳	(単位・円)
収入		715,270
後援会費	365,000	
寄付金	350,270	
支出		704,965
事務局費補助	210,000	
渉外費	35,000	
通信費	100,520	
事務費	103,178	
雑費	256,267	
差引		10,305
前期より		-541,292
累計		-530,987

2002年10月～12月

	内訳	(単位・円)
収入		434,000
後援会費	348,000	
寄付金	86,000	
支出		367,752
事務局費補助	210,000	
渉外費	45,000	
通信費	49,854	
事務費	62,798	
雑費	100	
差引		66,248
前期より		-530,987
累計		-464,739

【継続会員】(敬称略、以下同様)

芳人、岩瀬房子、市川由紀子、萩生羊子、長井しのぶ、渡辺美恵子、石田美保子、丸山真人、鈴木 靖、高村明子、宮田親平、中澤富士子、務台孝尚、高野京子、橋本みどり、加藤剛男・よし子、箕浦正敏、青田 健、鈴木徹太郎、松原典子、黒田みつ子、三浦 隆、小口幸成、中村妙子、吉田佐貴子、吉井 修

【寄付】

橋本真行、三ツ木篤子、藤井康治、横河マリ子、福中香穂子、小島陽子、竹内匡枝、中村美子、渡辺美恵子、稲本佑子、中山絹子、山本栄子、長井しのぶ、斉藤繁儀、山村恵美子、清水かよ子、三好泰子、鈴木郁子、森 延幸、原田知子、芝 正子、神田弘子、丹治めぐみ、岸谷てる子、鈴木徹太郎、三石旭子、合唱団出版局、バザー売上げ

【切手多数】

瀬底恵子、藤田玲子

【継続会員】(敬称略、以下同様)

安原美世子、小島陽子、川戸龍夫、桜井和子、秀村千穂子、豊田雅子、笠原維信、田辺たつ子、武藤京子、長谷川田鶴子、本郷容子、高田小夜子、加藤道子、岡本シゲ子、荻津雅夫、板木 亮、山本栄子、郡司信之、阪根隆司、布施靖子、田中玲子

【新入会員】

片岡武彦・京子、田波 豊

【寄付】

国吉三郎、横河マリ子、山本栄子、匿名氏、橋本啓子、中山昌子、渡辺美恵子

【切手多数】

瀬底恵子、天田 繁

2002年度年間収支報告

(参考：1999年度-2001年度)

	2002年度	1999年度	2000年度	2001年度
収入	1,724,370	2,128,500	2,044,000	1,416,000
後援会費	1,217,000	1,964,000	1,378,000	1,143,000
寄付金	507,370	164,500	666,000	273,000
支出	2,000,968	2,055,026	2,043,937	1,805,025
事務局費補助	840,000	840,000	840,000	840,000
渉外費	145,000	342,280	187,214	118,000
通信費	389,928	435,585	428,466	416,640
事務費	358,671	337,161	436,449	416,160
雑費	267,369	100,000	151,808	14,175
差引	-276,598	73,474	63	-389,025
前期より	-188,141	127,347	200,821	200,884
累計	-464,739	200,821	200,884	-188,141